

「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく 天神川流域の減災に係る取組方針(案)

説明資料

平成28年10月7日

天神川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

〔 倉吉市、北栄町、湯梨浜町、三朝町、鳥取県、
鳥取地方气象台、国土交通省中国地方整備局 〕

■天神川流域の減災に係る取組方針（案）の構成

1. はじめに
2. 本協議会の構成員
3. 天神川流域の概要と主な課題
 - (1) 天神川流域の地形的な特徴と氾濫特性
 - (2) 過去の洪水による被害状況
 - (3) 天神川の現状と課題
4. 現状の取組状況
5. 減災のための目標
6. 概ね5年で実施する取組
7. フォローアップ

1. はじめに

協議会設立の背景等や課題、取り組みの概要を記載

2. 本協議会の構成員

天神川流域の直轄管理区間に関係する自治体(1市3町)

倉吉市、北栄町、湯梨浜町、三朝町

鳥取県

気象庁鳥取地方気象台

国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所の構成員を記載

3. 天神川流域の概要と主な課題

流域の地形的な特徴と氾濫特性、過去の洪水による被害や天神川の現状と課題を記載

3. 天神川流域の概要と主な課題

地形的な特徴

- 天神川は、東西に延びた菱形のような形状
- 各河川の幹川流路延長は短く、他の河川に比べて急勾配
- 洪水の流出が早い

氾濫特性

- 氾濫域は、倉吉市の市街地、北栄町、湯梨浜町、三朝町の重要な公共施設含まれる
- 洪水の流出が早いため、避難時間が短い
- 天神川・国府川下流部は、氾濫すると、由良川や橋津川(東郷池)流域まで氾濫区域
- 天神川左岸では、浸水の継続時間が長期にわたる箇所がある
- 上流部は、堤防や護岸の崩壊による氾濫や河岸の浸食による家屋被害も懸念

過去の洪水による被害

- 昭和9年9月 室戸台風
- 昭和34年9月 伊勢湾台風
- 平成10年10月 台風10号
- 平成23年9月 台風12号

主な課題

- 防災意識の向上
- 迅速な避難行動の確保
- 効率的・効果的な水防活動
- 排水活動

4. 現状の取組状況

(1) 情報伝達、避難計画等に関する事項

- ・想定される浸水リスクの地域住民への周知

【課題】

- 想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図等が浸水リスクとして認識されていない。
- 想定最大規模降雨でのHMを公表する際は、避難計画もあわせて住民へ提示する必要がある。
- 県管理区間や天神川の氾濫に係る2級河川での想定最大規模降雨の洪水浸水想定区域の検討及び、公表が必要。
- 堤防決壊や浸水被害のイメージがわきにくい。
- HMの認知度など、住民の防災意識が把握できていない。

4. 現状の取組状況

(1) 情報伝達、避難計画等に関する事項

- ・洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミング

【課題】

- 洪水予報等の防災情報の意味が住民に理解されず、防災情報に対してその時点での切迫性、住民がとるべき行動につながらない恐れがある。
- 一般住民へ確実に情報を伝える必要がある。
- 避難行動につながるカメラ映像が提供できていない。



あんしんトリピーメール
(登録いただいた方の携帯電話・スマートフォン等に鳥取県内の配信を希望する防災情報等をメールでお送りするサービス)

〈配信する主な情報〉

- 気象特別警報・警報・注意報
- 地震情報(震度3以上)
- 津波情報(大津波警報、津波警報など)
- 気象情報(土砂災害警戒情報など)
- 防災・危機管理情報(避難勧告など)
など

4. 現状の取組状況

(1) 情報伝達、避難計画等に関する事項

- ・避難勧告等の発令基準

【課題】

- タイムライン作成においては、想定最大規模降雨を含め被災シナリオの設定が必要である。
- 計画規模降雨から想定最大規模降雨の避難計画をどのように繋いでいくのか検討が必要である。
- 事前に想定最大規模降雨と判断できるような情報が必要である。
- 避難勧告等の発令基準が、国の指針と鳥取県では異なっている。
- 悪天候や、深夜などの避難は、危険が伴うことから、これらの危険性を考慮し、避難勧告等を発令する必要がある。

4. 現状の取組状況

(1) 情報伝達、避難計画等に関する事項

- ・避難場所、避難所、避難経路

【課題】

- 避難場所と避難所を分けて考える必要がある。
- 避難場所・避難所の選定には、土砂災害も考慮する必要がある。
- 想定最大規模の浸水範囲において避難場所・避難所の確保が難しい状況にある。
- 想定最大規模降雨に伴う広域避難計画(避難勧告等の判断含む)について、市町村単独で検討を行うことは困難。又、どのような時に広域避難を行うのか判断基準がない。
- ハザードマップ作成を促進するための支援(財政面など)がない。
- いざという時に避難路が浸水しているなど、適切に行動できないことが懸念される。

4. 現状の取組状況

(1) 情報伝達、避難計画等に関する事項

- ・住民等への情報伝達の体制や方法

【課題】

- 勧告等の発令が住民の避難行動に結びついておらず、住民が防災情報をもとに自ら判断し行う準備行動や避難行動を啓発するための防災知識の普及が不十分である。
- 洪水予報等の防災情報の意味が住民に理解されず、防災情報に対してその時点での切迫性、住民がとるべき行動につながらない恐れがある。(再掲)
- 一般住民へ確実に情報を伝える必要がある。(再掲)
- 避難情報について、外国人を対象とした多言語化への対応や、聴覚障がい者等への対応がされていない。

4. 現状の取組状況

(1) 情報伝達、避難計画等に関する事項

・避難誘導體制

【課題】

- 夜間、荒天時においては、安全な避難を可能とする体制が不十分である。
- 避難場所と避難所を分けて考える必要がある。(再掲)
- 自主防災組織(自治会)への情報提供について現状と課題把握を行うとともに、それらを踏まえた避難誘導體制を確立する必要がある。
- 要配慮者利用施設等の避難確保計画の現状と課題把握を行うとともに、それらを踏まえた避難誘導體制を確立する必要がある。

4. 現状の取組状況

(1) 情報伝達、避難計画等に関する事項

・防災教育

【課題】

- 自治体職員は河川の専門家ではないため、河川についての説明能力向上のための取り組みが必要である。
- 小中学校での防災教育がカリキュラム化されていない。
- 自主防災組織(自治会)等の防災意識が向上する取組が必要である。

4. 現状の取組状況

(2) 水防に関する事項

- ・河川水位等に係る情報提供

【課題】

- 水防団は、水防活動を行うために、どのような情報が必要か把握できていない。
- 水防活動の際の様々な判断をするため、現場で水位情報を入手する手段として「川の防災情報」のURL やQR コードを、水防連絡会等で周知しているが、水防団の水防活動に十分に活かせていない。

4. 現状の取組状況

(2) 水防に関する事項

・河川の巡視区間

【課題】

- 夜間、荒天時においては、危険で水防団が河川に近づくことが難しい。
- 市町において、夜間巡視にCCTV カメラを利用したいが、夜間監視できる性能のCCTV カメラが整備されていない。
- 効率的・効果的な巡視を実施するためには、重点的に巡視すべき箇所
のデータが不足している。

・水防訓練

【課題】

- 水防活動を担う水防団員は、水防活動に関する専門的な知見等を習得する機会が少なく、的確な水防活動ができないことが懸念される。

4. 現状の取組状況

(2) 水防に関する事項

・水防資機材の整備状況

【課題】

- 資機材の備蓄量の決め方など目安となるものがない。
- 資機材確保のため、費用面に課題がある。

水防資機材一覧(鳥取県)

イ 水防倉庫には、概ね下表に示す水防資器材を備蓄する。

掛矢	高張ちょうちん	ロープ(縄)	のこぎり	ローソク
鉄線	ツルハシ	カーバイト	杉丸太	スコップ
割木	鉄杭	なた	肥松	ビニールパイプ
ペンチ	もっこ	竹	鎌	かつぎ棒
蛇かご	おの	足場板	かすがい	たこつち
軽量鋼矢板	予備土(※)	はしご	麻袋	詰め石用石
バケツ	合成繊維製土のう袋	土のう	かがり台	ビニールシート
トンパック	大型照明灯	布シート		

(※) 予備土は、水防倉庫付近又は適切な箇所に常備。

<出典> 鳥取県: 鳥取県地域防災計画 平成27年度修正,p313

4. 現状の取組状況

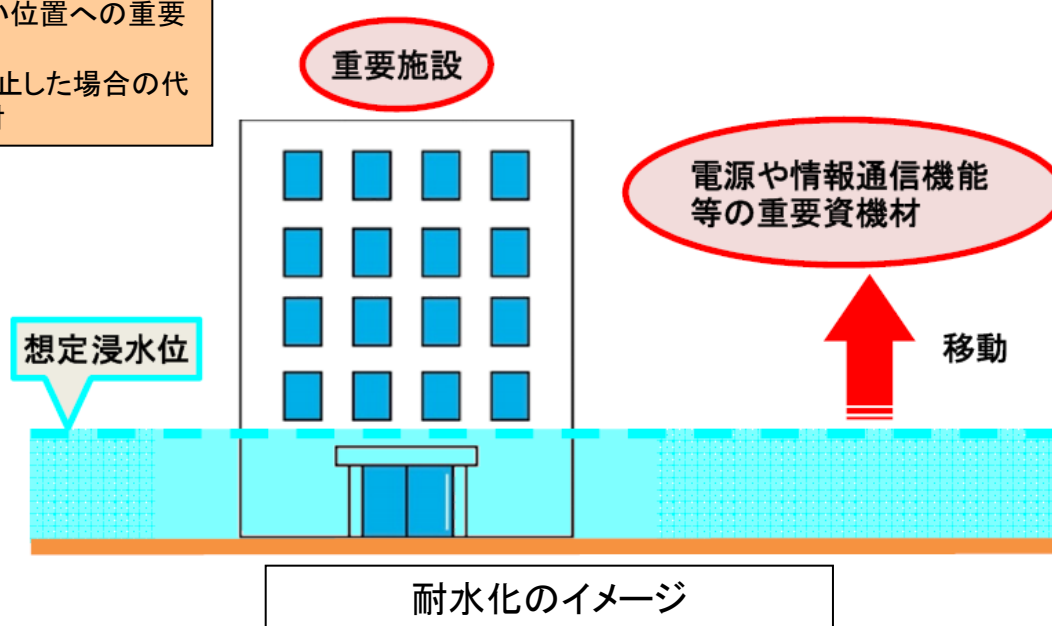
(2) 水防に関する事項

- ・市庁舎、災害拠点病院等の水害時における対応

【課題】

- 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を踏まえ、現況施設の評価を行い、必要に応じ、対策について検討する必要がある。

- ・ 想定浸水深より高い位置への重要資機材の移動
- ・ 重要施設が機能停止した場合の代替可能な施設の検討



4. 現状の取組状況

(3) 氾濫水の排水、施設運用に関する事項

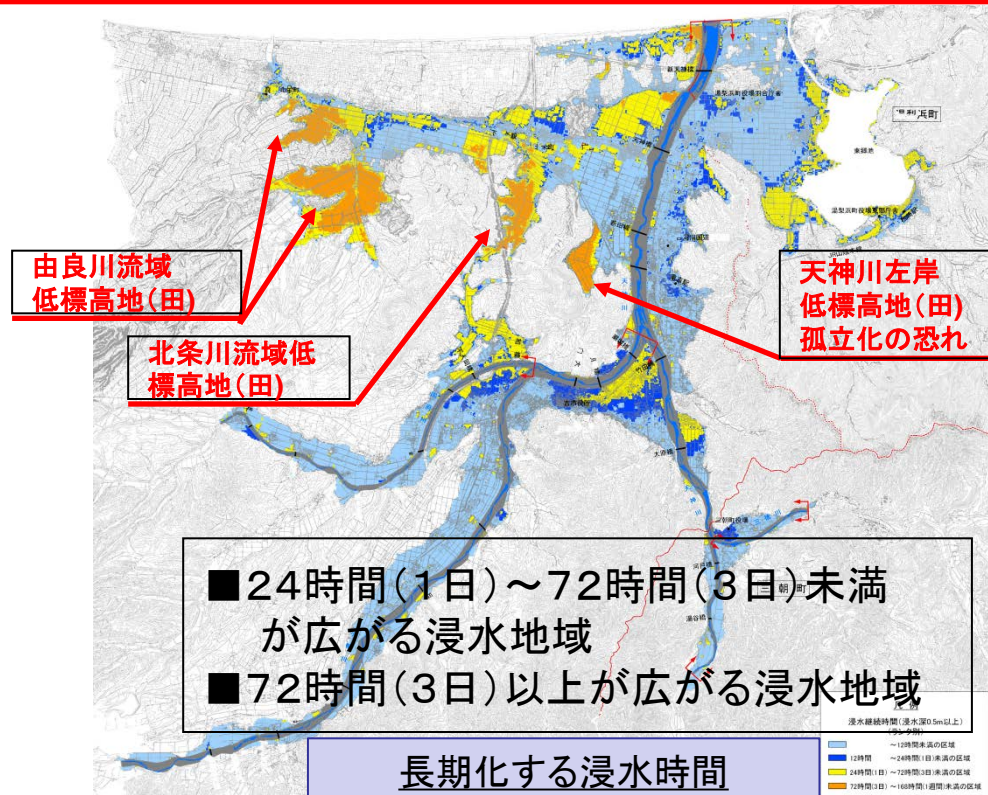
- ・排水施設、排水資機材の操作・運用

【課題】

- 想定最大規模降雨による浸水に対する排水ポンプ車の配置計画、運搬計画の検討が必要



平成23年9月 台風12号時の
和田救急内水排水機場 排水状況
(国府川左岸 0k200付近)



4. 現状の取組状況

(4) 河川管理施設の整備に関する事項

- ・洪水を安全に流すためのハード 対策の推進

【課題】

- 昭和34年9月洪水と同規模の洪水で、家屋浸水などの被害が発生する恐れがある。

過去の災害

発生年月日	発生原因	被害状況 (破損・浸水)	小田地点流量	備考
昭和09年 09月20日	室戸台風	約7,300戸	約3,500m ³ /s (推定)	既往 最大洪水
昭和34年 09月20日	伊勢湾台風	約135戸	約2,200m ³ /s (推定)	戦後 最大洪水
平成10年 10月19日	台風	53戸	約1,800m ³ /s (実測)	
平成23年 9月3日	台風12号	倉吉市 81戸	平成23年 9月3日	

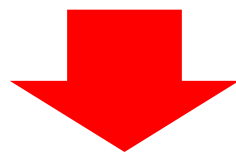


昭和34年伊勢湾台風洪水
倉吉市関金地区の破堤状況

5. 減災のための目標

●5年間で達成すべき目標

急激な水位上昇を伴う洪水、下流域では氾濫域が急激に拡大する氾濫特性を踏まえ、天神川では大規模水害に対し、ハード・ソフト対策を推進して「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指す。



急激な水位上昇を伴う洪水、浸水が広範囲となり長期化する氾濫特性を踏まえ、天神川では大規模水害に対し、ハード・ソフト対策を推進して「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指す。

※大規模水害

… 想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害

※逃げ遅れ

… 立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態

※社会経済被害の最小化

… 大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態

5. 減災のための目標


● 目標達成に向けた3本柱の取組

- ① 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組
- ② 急流河川の地域特性に応じた効率的・効果的な水防活動
- ③ 長期化する浸水を一日も早く解消するための排水活動

6. 概ね5年で実施する取組

(1) 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

課題

- 地域住民の水災害に対する防災意識の低下が懸念されるため、迅速かつ的確な避難行動のため、想定される浸水リスクを住民へ周知する必要がある。
 - ・近年堤防が決壊するような大きな水害を経験していない。
 - ・現状は計画堤防高に満たない堤防や質的整備が完了していない堤防が存在
 - ・現在の整備水準を上回る洪水に対して浸水被害が懸念され、広範囲におよぶ浸水範囲が想定されている。
 - 想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図に伴い、ハザードマップとして取りまとめ、住民に周知していく必要がある。
 - ・浸水深が深く垂直避難が困難な地区、浸水時間が長い地区、家屋倒壊等氾濫想定区域が広い範囲で分布。
 - ・土砂災害警戒区域も分布しており、既存の避難所等の適否、避難経路の設定をする必要が生じている。
 - ・洪水の流出が早いこと、避難に要する時間、避難経路等を踏まえ、必要に応じ広域的な避難について議論を進める。
 - ・切迫した災害の危険から命を守るために避難する場所である指定緊急避難場所、災害により住宅を失った場合等に一定期間避難生活をする場所である指定避難所、避難経路について検討。
- 

6. 概ね5年で実施する取組

(1) 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

取組方針

- ・天神川は急流河川であり、堤防や護岸が被災しやすいこと、流水の流出が早いことなどの流域特性や、ひとたび氾濫が起こると広範囲かつ長期間浸水が継続するという水害リスクを住民や自主防災組織(自治会等)など広く一般に周知するため、小中学校などと連携した天神川水系の天神川水系の特徴を踏まえた水害(防災)教育の拡充、自主防災組織(自治会等)を対象とした防災知識の普及及び防災マップの作成支援について拡充を図る。(継続実施)
- ・天神川下流部、国府川下流部が氾濫すると、2級河川の由良川及び橋津川(東郷池)流域に氾濫流が流れ込むため、天神川の県管理区間及び由良川、橋津川(東郷池)の想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図を平成29年度までに作成するとともに、想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図や土砂災害警戒区域等に基づき、避難場所や避難所、避難経路の検討・設定を行い、これらを踏まえたハザードマップの作成を平成28年度から検討実施する。

6. 概ね5年で実施する取組

(1) 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組



取組方針

- ・市町の行政界を跨ぐ広域的な避難の検討及び必要に応じて関係行政機関との協議調整を図りハザードマップへ反映させる。(平成28年度から検討実施)
- ・想定最大規模を想定した住民避難に着目したタイムラインの検討を行うとともに、県管理区間の氾濫危険水位等の見直しに伴う市町の避難勧告等判断基準の見直し、また、これに伴う避難勧告発令等に着目したタイムラインの更新に取り組む。

6. 概ね5年で実施する取組

(2) 急流河川の地域特性に応じた効果的な水防活動

課題

○天神川の特徴を踏まえた効果的な水防活動を実施するための訓練等が必要である。

- ・天神川水系は、急流河川で洗掘を受けやすく滯筋が変化し、浸食による堤防決壊の可能性がある。
- ・短時間の水位上昇量が大きいいため、水防活動による避難時間の確保が重要となる。



取組方針

○効果的・効率的な水防活動に資する基盤整備として、河川のリアルタイム映像(CCTV)の配信、共有(平成29年度～順次実施)や洪水に対しリスクの高い箇所に簡易水位計の整備(順次実施)を実施。

○水防活動の効率化や水防体制の強化のため、洪水に対しリスクの高い区間について、水防団等との合同点検(平成28年度～定期的に実施)、水防技術講習会・関係機関が連携した実践的な総合水防訓練(平成28年度～定期的に実施)を実施する。

6. 概ね5年で実施する取組

(3) 長期化する浸水を一日も早く解消するための排水活動

課題

○浸水を一日も早く解消するため、大規模水害を想定した排水計画の作成等が必要である。

- ・天神川の氾濫により、倉吉市街地、北条・羽合両平野等の低平地では広範囲にわたり、より長期間の浸水が発生することが懸念される。
- ・由良川、東郷池の氾濫により、長期化する。



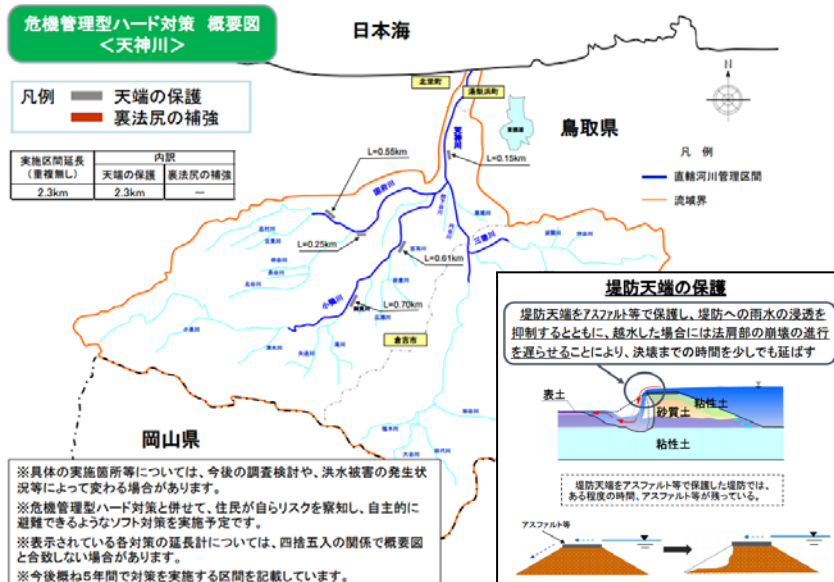
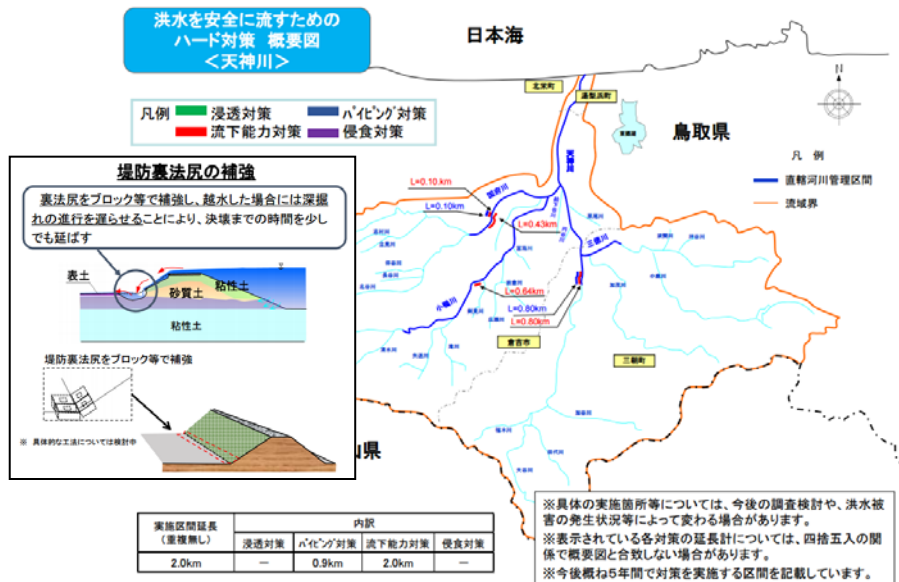
取組方針

- ・社会経済活動の早期再開、国道や鉄道網途絶の影響を最小限にするとともに長期化する浸水を1日でも早く解消するため、排水手法の検討を行い大規模水害を想定した排水計画を作成する。(平成30年度目標)
- ・排水計画に基づく排水訓練の実施

6. 概ね5年で実施する取組

① 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

事項	内容	目標時期 (年度)	取組機関			
			倉吉市 北栄町 湯梨浜町 三朝町	鳥取県	鳥取地方 気象台	中国地方 整備局
■ 洪水を安全に流すためのハード対策の推進						
	・堤防の浸透対策、パイピング対策を実施	H32			○	
	・流下能力対策を推進	H32			○	
■ 危機管理型ハード対策の推進						
	・堤防天端の保護を目的とした舗装の実施	H28			○	



6. 概ね5年で実施する取組

(1) 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

事項	内容	目標時期 (年度)	取組機関			
			倉吉市 北栄町 湯梨浜町 三朝町	鳥取県	鳥取地方 气象台	中国地方 整備局
■避難行動に資する基盤等の整備						
	・危険に対しリスクの高い箇所を監視する簡易水位計等の整備	順次実施				○
	・避難の目安となる目標物等のリアルタイム映像の提供設備の整備	順次実施				○
	・想定最大規模降雨の浸水想定区域図に基づく行政機関の災害対策本部等の機能確保対策の検討	H28～検討実施	○	○		○
	・避難場所・避難所の確保及び関係防災施設の整備についての検討・調査	H28～検討実施	○	○		○
■想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成・周知等						
	・県管理区間や天神川氾濫に関係する2級河川における想定最大規模降雨を対象とした浸水想定区域図及び氾濫シミュレーションの公開	H29		○		
	・天神川直轄管理区間、県管理区間及び天神川氾濫に関係する2級河川における想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図、新たに設定された家屋倒壊等氾濫想定区域、土砂災害警戒区域等に基づく避難場所、避難所、避難経路の設定及び避難計画の見直し	H28～検討実施	○	○	○	○
	・広域的な避難の検討及び必要に応じ関係行政機関との協議・調整を図り、ハザードマップへ反映	H28～検討実施	○	○		○
	・想定最大規模降雨の浸水想定区域図に基づくハザードマップを作成し、洪水浸水想定区域内の各戸・自主防災組織への配布	H28～検討実施	○			

6. 概ね5年で実施する取組

(1) 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

事項	内容	目標時期	取組機関			
			倉吉市 北栄町 湯梨浜町 三朝町	鳥取県	鳥取地方 気象台	中国地方 整備局
■避難の円滑化・迅速化を図るための取り組み						
	・想定最大規模を想定した、住民避難に着目したタイムラインの更新	H29～	○	○		○
	・県管理区間の氾濫危険水位等の見直しに伴う市町の避難勧告等判断基準の見直し、また、これに伴う避難勧告発令等に着目したタイムラインの変更	H28～検討実施	○	○	○	○
	・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成の促進	H28～検討実施	○	○		
	・夜間、荒天時の避難勧告等の発令基準の作成・避難誘導體制の検討	順次実施	○		○	
	・広域的な避難の検討及び必要に応じ関係行政機関との協議・調整を図り、ハザードマップへ反映(再掲)	H28～検討実施	○	○		○
	・避難所開設等災害対応人員の確保	H28～検討実施	○			

6. 概ね5年で実施する取組

(1) 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

事項	内容	目標時期 (年度)	取組機関			
			倉吉市 北栄町 湯梨浜町 三朝町	鳥取県	鳥取地方 气象台	中国地方 整備局
■市長・町長に対し助言を行う者の育成及び派遣						
	・市長・町長に対し助言を行う者の育成及び派遣	H28～定期的 的に実施	○	○	○	○
	・河川防災担当職員を対象とした研修の実施	H28～定期的 的に実施	○	○	○	○
■防災教育(学習)防災知識の普及						
	・防災教育の指導内容及び地域の特性に合わせた教材等の作成	H28～順次 実施	○	○	○	○
	・小中学校などと連携した天神川水系の特徴を踏まえた水害(防災)教育の拡充	継続実施	○	○	○	○
	・自主防災組織(自治会等)を対象とした防災知識の普及及び防災マップの作成支援の拡充	継続実施	○	○	○	○
	・学校教育関係者向け研修や講座等の開催及び講師等の派遣	H29～定期的 的に実施	○	○	○	○
	・河川防災に関わる市町の防災担当者向けの説明会の開催	H28～順次 実施		○	○	○



説明会のイメージ

<出典>国土交通省:水害ハザードマップの利活用事例集

6. 概ね5年で実施する取組

(1) 逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組

事項	内容	目標時期 (年度)	取組機関			
			倉吉市 北栄町 湯梨浜町 三朝町	鳥取県	鳥取地方 気象台	中国地方 整備局
■ 避難を促す状況情報の提供						
	・「川の防災情報」や地上デジタル放送のデータ放送の活用促進のための周知	H28～H29 出水期まで				○
	・避難の目安となる目標物やリアルタイム映像の配信・共有	H28～順 次実施				○
	・自主防災組織(自治会等)への情報提供の現状と課題把握を踏まえた災害時の情報収集方法等の周知	H28～順 次実施	○	○		
	・スマートフォン等へのプッシュ型の洪水情報発信	H29				○

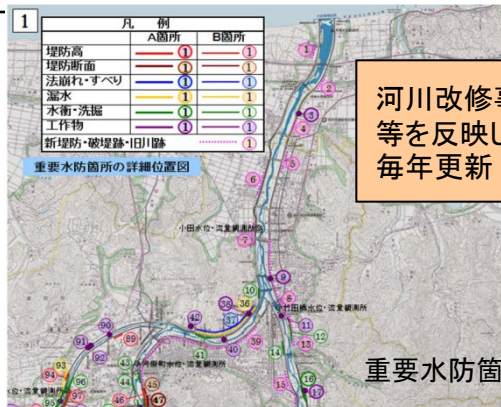


< 出典 > 国土交通省HP
<http://www.mlit.go.jp/river/mizubousaivision/soft.html>

6. 概ね5年で実施する取組

(2) 急流河川の地域特性に応じた効果的な水防活動

事項	内容	目標時期 (年度)	取組機関			
			倉吉市 北栄町 湯梨浜町 三朝町	鳥取県	鳥取地方 気象台	中国地方 整備局
■水防活動に資する基盤等の整備						
	・河川のリアルタイム映像(CCTV)の配信、共有(行政向け)	H29～順次 実施	○	○		○
	・洪水に対しリスクの高い箇所を監視する簡易水位計の整備(再掲)	順次実施				○
■水防活動の効率化及び水防体制の強化						
	・洪水に対しリスクが高い区間について、水防団や自主防災組織(自治会)が参加した合同点検	H28～定期的 に実施	○			○
	・水防技術講習会、関係機関が連携した実践的な総合水防訓練	H28～定期的 に実施	○	○	○	○
	・備蓄水防資機材の共有、非常時の相互支援方法の確認	H28～定期的 に実施	○	○		○



河川改修事業
等を反映して
毎年更新

重要水防箇所の詳細位置図



H27合同点検実施状況(倉吉市)

6. 概ね5年で実施する取組

(3) 長期化する浸水を一日も早く解消するための排水活動

事項	内容	目標時期 (年度)	取組機関			
			倉吉市 北栄町 湯梨浜町 三朝町	鳥取県	鳥取地方 气象台	中国地方 整備局
■排水計画の作成及び排水訓練の実施						
	・排水手法の検討を行い、大規模水害を想定した排水計画の作成	H30	○	○		○
	・排水計画に基づく排水訓練の実施	H31～定期的 に実施	○	○		○
■排水活動に資する施設等の整備						
	・効果的・効率的な排水施設、釜場等の(施設)整備	H31～順 次実施	○	○		○

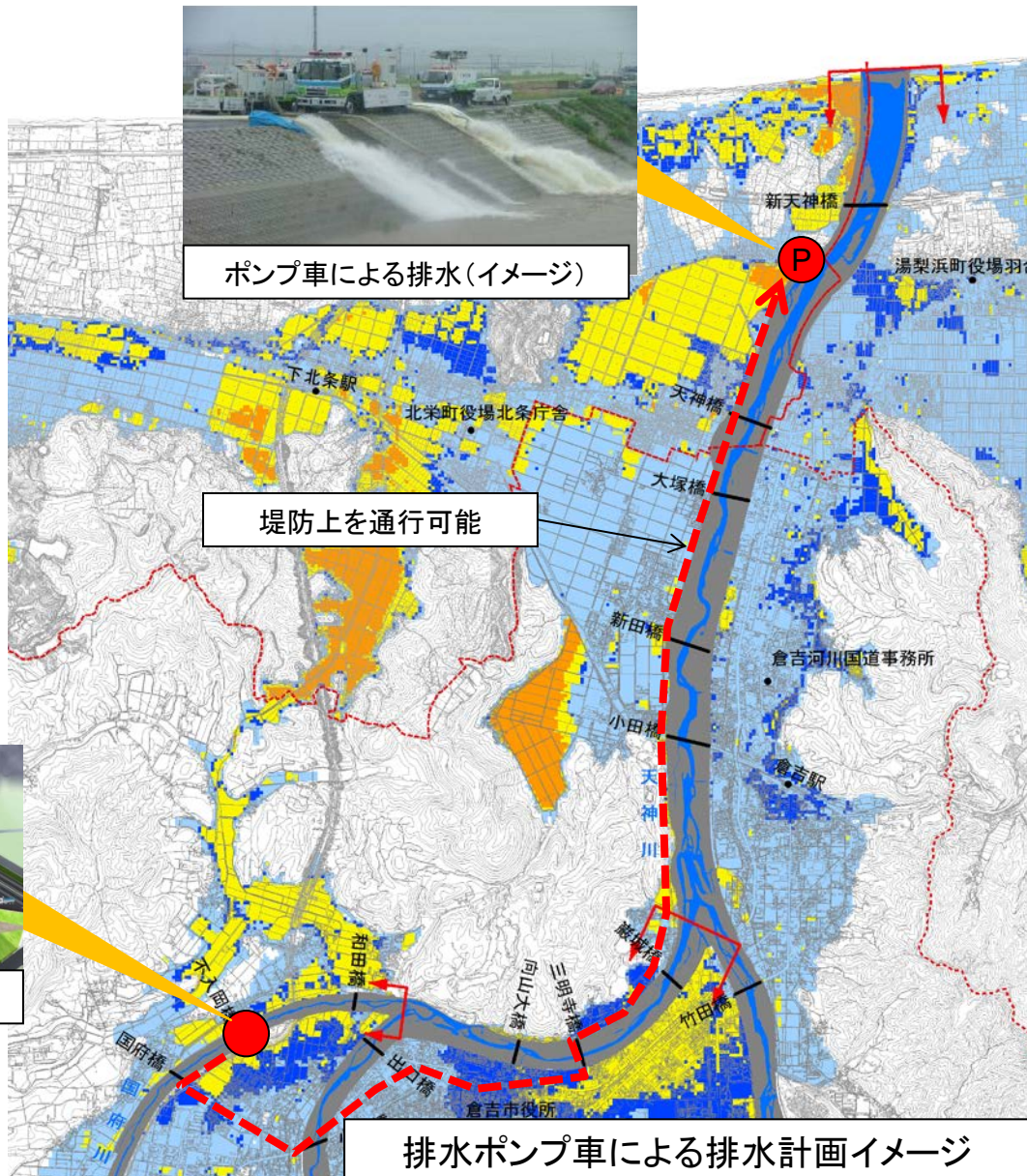
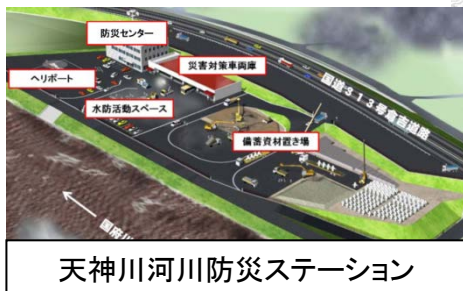
6. 概ね5年で実施する取組

(3) 長期化する浸水を一日も早く解消するための排水活動

■過去の浸水状況や浸水解析結果から想定される浸水箇所について、排水ポンプ車の設置位置や運搬ルートの確認等の総合的な排水計画を作成する。
(※他流域にも配慮する必要がある)

＜主な検討事項＞

1. 排水ポンプ車の設置箇所
 - ①地盤が低く効果的に排水可能か
 - ②ポンプ車は停車できるか
 - ③揚程は低く効率的に排水可能か
2. 排水ポンプ車の移動ルート
 - ①移動ルートは浸水していないか
 - ②車幅は確保されているか



凡例	
浸水継続時間(浸水深0.5m以上) (ランク別)	
	～12時間未満の区域
	12時間 ～24時間(1日)未満の区域
	24時間(1日)～72時間(3日)未満の区域
	72時間(3日)～168時間(1週間)未満の区域
	市町境界
	河川等範囲
	浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川および水位周知河川

7. フォローアップ

各構成機関の取組内容については、必要に応じて、防災業務計画や地域防災計画等に反映することによって責任を明確にし、組織的、計画的、継続的に取り組むこととする。

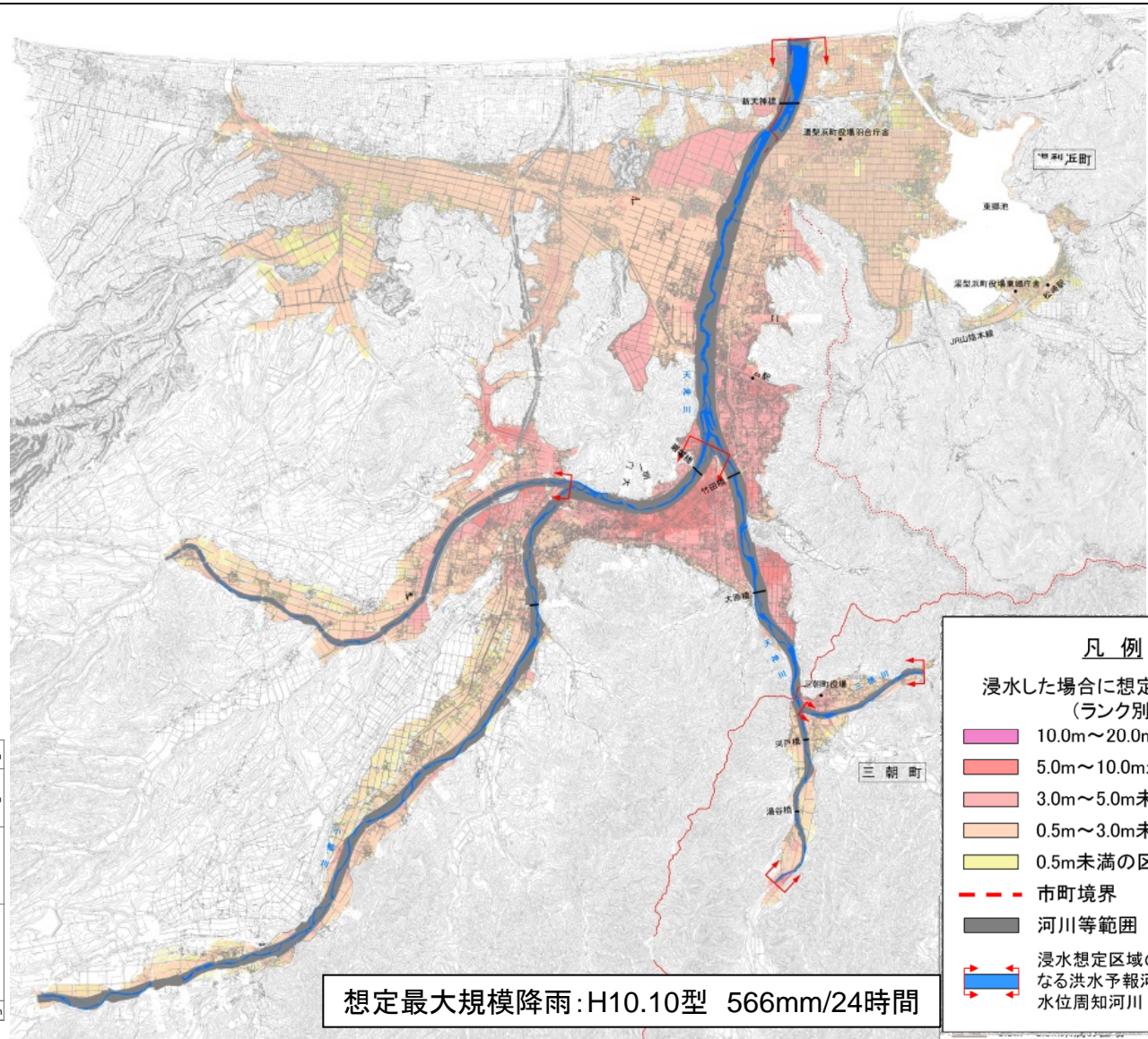
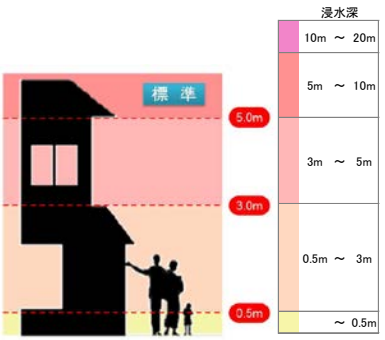
今後、取組方針に基づき連携して減災対策を推進し、毎年出水期前に協議会を開催し、進捗状況を確認するとともに、必要に応じて取組方針の見直しを行う。

また、実施した取組についても訓練・防災教育等を通じて習熟、改善を図るなど、継続的にフォローアップを行うこととする。

なお、本協議会は、今後、全国で作成される他の取組方針の内容や技術開発の動向等を収集した上で、随時、取組方針を見直すこととする。

■ 浸水想定区域図（想定最大規模）

天神川、小鴨川、国府川、三徳川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により天神川、小鴨川、国府川、三徳川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される浸水深をシミュレーションにより予測したもの。



凡例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 10.0m～20.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 0.5m未満の区域
- 市町境界
- 河川等範囲
- 浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川および水位周知河川

想定最大規模降雨：H10.10型 566mm/24時間

■ 浸水継続時間図

堤内地の浸水継続時間の最大は3日～1週間程度となり、倉吉市街地等において1日～3日未満もあるが、概ね1日以内に排水される。

